FMU NEWS Letter
FEBRUARY 07, 2025 Vol.34

TOPIC

ハーバードT.H.Chan公衆衛生大学院　福島フィールドトリップ

福島とハーバード大学の懸け橋実現

世界的な視点で福島を理解し、地域に根ざした研究と情報発信促進

令和7年1月6日(月)から1月24日(金)の間、ハーバードT.H.Chan公衆衛生大学院インターナショナルコース「ウィンター・セッション福島フィールドトリップ」が新たに創設され、約3週間にわたり実施されました。

初日には、ハーバードT.H.Chan公衆衛生大学院の学生15名が本学を訪れ、竹之下誠一理事長兼学長らとの面会が行われました。竹之下理事長兼学長は、「福島のアンバサダーとして復興の状況を世界に伝え、健康危機に直面する地域で福島の経験が活かされることを願っている」と激励の言葉を述べました。

また、このコース創設に尽力したハーバードT.H.Chan公衆衛生大学院後藤あや主任教授(福島県立医科大学特任教授)は、「福島復興の過程を自分たちの言葉で語れるようになり、それぞれの現場での学びを活かし、現状に沿った情報発信をしてほしい」と期待を語りました。

参加者は、アメリカ、中国、台湾、インドネシア、コロンビア、カナダ、パキスタン出身の医師などの大学院生で構成されています。

その訪問先は、東日本大震災・原子力災害伝承館(双葉町)、東京電力福島第1原発、福島学院大学、郡山女子大学など多岐にわたり、本学でも教員による講義や学生との交流も行いました。

1月21日(火)に、学内外約50名が参加して本学で行われた報告会では、震災後の公衆衛生分野の取り組みや、科学的根拠に基づき地域社会のニーズに即した「より良い復興」に向けた提案が行われました。

竹之下理事長兼学長は、「本日成果を発表する際には、皆様が希望、復興、学びの物語の一部になったことを忘れないでほしい」と感謝を込めて挨拶し、後藤あや主任教授は、今後も継続される本コースについて、「来年は浜通りへの訪問を増やしたい」と次年度を見据えました。

世界的な視点で福島を理解し、地域に根差した研究や課題解決への取り組みが進むことが期待されます。

そして、復興に向けて歩み続ける福島の今が、世界に広く伝わることにもつながります。

こうした取り組みを通じて、希望や復興、学びの物語が紡がれ、福島フィールドトリップの新たな章が描かれていくことを祈念します。

NEWS

海外留学に興味のある方もそうでない方も必見!「国立シンガポール大学医学部留学の1ヶ月間に密着!」

福島県立医科大学広報サークル「FMU PR_Lab」が制作した動画『国立シンガポール大学医学部留学の1ヶ月間に密着!』が公開されました。

この動画は、本学学生が国立シンガポール大学(NUS)医学部で1ヶ月間の研修を行った様子を学生目線で紹介するものです。

動画は約4分30秒とコンパクトにまとめられており、視聴者は短時間で研修の流れを知ることができます。

内容は、シンガポール到着(0:21)から始まり、実習の始まり(0:56)、現地の学習環境(1:48)、医学教育実習のリアルな感想(1:57)など、留学生活のありのままの体験が記録されています。

また、観光の合間に現地の食文化に触れる様子(3:04)や、外科実習を終えた学生の振り返り(4:23)も探られており、学びだけにとどまらない異文化体験の様子などが伝わる内容となっております。ぜひご覧ください。

本学では、国際的な学びの機会を提供し、学生が広い視野を養い、世界に通用する医療人として将来成長できるよう取り組んでいます。

「国立シンガポール大学医学部留学の1ヶ月間に密着！」動画はこちらから

国際原子力機関（IAEA）理事国の大使5名が本学を視察しました

令和7年1月15日（水）、国際原子力機関（以下、IAEA）の理事国理事を務める5カ国の大使が、昨年に続き外務省の招聘事業として本学を視察しました。

来学したのは、海部篤大使（外務省在ウィーン国際機関日本政府代表部特命全権大使）をはじめ、IAEA理事国理事を務める在ウィーン国際機関政府代表部のミレヤ・デルカルメン・ムニョス・メラ大使（エクアドル）、ダモス・ドゥモリ・アグスマン大使（インドネシア）、キャロリン・ヴェルミューレン大使（ベルギー）、ラウラ・ヒル大使（コロンビア）、シャンブ・クマラン大使（インド）の5名です。

今回の視察は、我が国における最先端の原子力活動、特に放射線の医療分野への応用に貢献している原子力の平和的利用の取り組みや、我が国の科学技術力の高さ、さらには東京電力福島第一原子力発電所事故後の教訓を踏まえた原子力安全強化の取り組みについての理解を深めてもらうことを目的としています。

歓迎セレモニーでは、本学から竹之下誠一理事長兼学長、河野浩二理事、山下俊一副学長、安村誠司放射線医学県民健康管理センター長、鈴木義行放射線腫瘍学講座主任教授らが出席し、大使らを迎えました。

竹之下誠一理事長兼学長からは「本学とIAEAとの協力関係がさらに発展していくことを願っている」と挨拶があり、海部大使からは「福島医大は原子力の医学医療利用の促進において重要な役割を果たしている。今回の視察を通して、われわれは福島への思いを一層強くすると確信している」と述べられました。

その後のワークショップでは、放射線災害医療学講座の長谷川有史主任教授が本学附属病院放射線災害医療センターを案内しました。

安村センター長から県民健康調査事業についての説明を、先端臨床研究センターの志賀哲教授および高橋和弘教授から、放射性核種アスタチンを用いたがん治療薬の開発に関する説明を行い、医療用放射性同位元素の製造に特化した中型サイクロトロンを見学いただきました。

AWARDS CEREMONY

本学教員が福島医学会各賞を受賞

令和6年度福島医学会表彰授与式及び受賞者の記念講演会を令和7年1月23日（木）に開催しました。

優れた医学研究を行った研究者に贈られる本年度の福島医学会賞を、医学部輸血・移植免疫学講座、医学部消化管外科学講座三村耕作准教授が受賞しました。

また、福島医学会学術奨励賞を医学部消化器内科学講座浅間宏之助教、リウマチ膠原病内科学講座松本聖生博士研究員の2名が受賞しました。

表彰式は本学で行われ、竹之下誠一理事長兼学長が福島医学会各賞受賞者一人一人に表彰状を手渡し、学術研究集会担当幹事を務める医学部呼吸器外科学講座鈴木弘行主任教授が陪席しました。

また、表彰式の後に、受賞者による受賞記念講演会が開かれました。

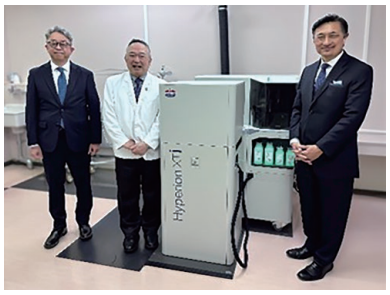
TOPIC

国内初導入の最新解析機器「イメージングマスサイトメーター Hyperion XTi」を公開

この度、本学では、国内で初めて最新機器「イメージングマスサイトメーター Hyperion XTi」を導入しました。この機器により、従来数種類だった分子解析が40種類以上同時解析可能となり、病気の原因解明や治療効果の詳細分析が短時間で行えるようになります。

この機器は組織内のたんぱく質や遺伝子を可視化し、がんや循環器疾患、神経疾患の研究に活用が期待されています。本学は、国内唯一の保有機関として、国内外の研究機関や企業と積極的に連携し、医療・科学の国際的研究基盤を築いていきます。

令和7年1月9日（木）の内覧会では、竹之下誠一理事長兼学長が「先進的な取り組みを続けていく」と述べました。本機器を活用し、研究の発展と医療技術の向上に貢献していきます。



INFORMATION

放射線医学県民健康管理センターでは、令和7年2月20日（木）に福島駅前キャンパスで国際シンポジウムを開催します。

7回目となる今回は、前半で、県民健康調査に関する最新情報等をお伝えするほか、後半は、県民の皆さまが必要とする情報をよりわかりやすくお伝えする「県民公開講座」として、本学医学部産科婦人科学講座の藤森敬也教授が「みなさんご存じですか?流産のこと、先天異常のこと」、同放射線健康管理学講座の坪倉正治教授が、「災害『後』の健康を守る」と題して発表します。

当日は、会場参加とオンライン（Zoom）を併用したハイブリッド方式にて開催します。どちらも事前申込制となりますので、参加をご希望の方は、下記のQRコードよりお申込みください。

詳細はこちらから
※申込み締切日
2月14日（金）

FMU NEWS Letter 発行：公立大学法人福島県立医科大学　広報コミュニケーション室